

会 議 録

会 議 名	令和6年度 第3回東松山市立中学校部活動地域移行検討協議会					
開 催 日 時	令和7年2月26日（水）			開 会	15時30分	
				閉 会	16時45分	
開 催 場 所	東松山市総合会館4階 多目的ホールB					
会 議 次 第	1 開会 2 挨拶 3 協議 ・学校部活動の充実及び課題解決に向けた協議 4 その他 5 閉会					
公開・非公開の別	公開		傍 聴 者 数		1名	
非公開の理由 (非公開の場合)						
委員出欠状況	座 長	森 浩寿	出席	委 員	長澤 誠	出席
	委 員	寺田 浩之	出席	委 員	梶田 英司	出席
	委 員	大塚 実	出席	委 員	松崎 努	出席
	委 員	岡部 健	出席	委 員	遠藤 和宏	出席
	委 員	太田 あや子	出席			
事 務 局	教育長 吉澤 勲			学校教育部長 高荷 和良		
	学校教育部次長 細野 敦			主任指導主事 長沢 正博		
	指導主事 柳 恒平					

次 第	顛 末
1 開 会	事務局 開会宣言
2 挨拶	教育長
3 協 議	事務局 ・ 本日の協議内容について ①部活動指導員の要綱、採用について報告。 ②部活動指導員の配置方法について ・ 外部指導者から部活動指導員になる方は、原則、現在活動している学校で勤務する。それ以外の方は、拠点校を決めて配置し、市全体から生徒を募集し指導する方法と各学校を回って指導する方法を考えている。 ③令和7年度の予定について 1：部活動担当者会議について 2：地域クラブについて 3：アンケートについて 森座長 ・ 前回の話し合いを踏まえた上で質問等あればお願いしたい。 寺田委員 ・ 1 前回の会議でスポーツ協会新年会にて地域移行について話をする事になっていたが、私は諸事情で出席することができなかった。吉澤教育長から地域移行についての説明を頂いたとの報告がスポーツ協会事務局よりあった。 2 資料の訂正 3 他市町村の状況について情報提供 ①部活動の地域移行に関して専任職員を雇用している自治体もある ②他の自治体では、自分の通学予定校に希望する部活動がない場合、指定通学区域外へ進学するということもある。 岡部委員 ・ 部活動指導員の採用が3月中旬からとなっているが、事前に各校へ希望する種目などを調査することはないのか。 事務局 ・ 今のところ考えていない。市内中学校長と打ち合わせをしながら進めていきたい。 森座長 ・ 11名の採用なので、全ての学校に偏りなく配当することは難しいと考えられる。 ・ 基準を検討していく必要があると考える。 梶田委員 ・ 今年度登録している外部指導者全員へ要項を渡し、部活動指導員の登録について案内をしてよいのか。

事務局	・外部指導者へ声をかけていただくことを想定している。また、要項について説明をしてもらってよい。
長澤委員	・現在外部指導者の人に声をかけて、11名を超える応募がある場合はそれで終了ということか。
事務局	・応募の状況を見て種目等の偏りがないように配置していきたいと考えているため、11名を超えた場合でも終了とならない可能性がある。
長澤委員	・定員になってしまうことも充分にあると考えているか。
事務局	・現在の外部指導者のみで定員となる可能性があることは想定している。
森座長	・新たに部活動指導員に登録するということは現在外部指導者をしている人も含まれているのか。
事務局	・現在外部指導者として登録されている人は含まないと考えている。
森委員	・部活動指導員が、市内全域へ幅広く部活動に関われるような形を考えていく必要がある。
	・今後大会への出場をどのようにするのかを考えていく必要がある。部活動指導員が配置されていない学校の土日の活動はどのように行う予定か。
事務局	・部活動指導員が現状の部活動運営について全てを行うということは現状考えていない。
教育長	・令和8年度以降、地域展開する上で合同部活動も頭に入れて考えてもよい。
森委員	・要項は毎年変更することはいえるか。
事務局	・状況を見て変更する可能性はある。
森委員	・運用していく上で、臨機応変な変更についても考えていたほうがよい。
	・部活動指導員については指導者が拠点校型と巡回型を現状考えているが、学校としてはどう考えているか。実施していないので、不透明な部分もあるとは考えているが。
梶田委員	・今回のものが1つのプロトタイプとなると考えているが、11人の部活動指導員が集まるかはどうか不透明な部分が大きいと考えている。指導員については巡回型も手段の一つだと考える。また、部活動での指定校変更ということも考えていかなければならないのではないかと。
松崎委員	・私も部活動での指定校変更も考えていかなければならないと思う。子どもたちの数が減っていくことから、学校によっては競技を行うだけの人数が集まらない場合が出てくる。部活動指導員を拠点校に配置するという形の方がよいのではないかと思う。
森委員	・指導者が各学校を回る方法と学校に固定する方法の両方を考えていくことが必要だと思う。

松崎委員	・大会前は、指導を希望する学校が多いことから、1校に一人の部活動指導員を固定して配置した方が良いのではないかと思います。
森委員	・運動する生徒と運動しない生徒に二極化されていることから、部活動に加入していない生徒が参加できるようにしたい。 ・R7年度も外部指導者の制度は継続するのか。
事務局	・R6年度と同等に継続する予定である。
森委員	・理想として、生徒の技能レベルによって活動できる体制ができるとう良い。
寺田委員	・部活動指導員の配置は、R8年度以降も継続して行う予定か。
事務局	・未定であるが、予算要求は続けて行っていく。
寺田委員	・子どもたちのためにも、将来的に全部活動で部活動指導員が配置出来るようにして欲しいと考える。
森委員	・まずは部活動指導員の配置をして、活用方法を検討していく必要がある。
遠藤委員	・現在外部指導者として指導している方だけで、11名が決まってしまう新しく採用する方がいないのではないかと思います。 ・教職員の人事異動により顧問が変わることがあるので、次年度は競技を決めてから部活動指導員を採用していても良いのではないかと思います。
森委員	・将来的には、子どもたちが多様な種目に触れる機会ができるよう、市内に現在ない種目を取り入れることを考えていけると良い。
大塚委員	・吹奏楽の場合、学校ごとにコンクールなどに向けて練習している曲が違うので、各校から部員を集めて行うことが難しいと思う。現状の外部指導者を部活動指導員にするのではなく、ここで新たに部活動指導員として任用する場合には、指導者が学校を回る形が良いのではないかと思います。 ・課題としては、楽器の運搬と保管、活動場所が挙げられる。
森委員	・将来的には、活動に参加する単位が、登録する段階で市の規模なのか、いくつかの学校で合同チームとなるかもよく考えていかなければならないと思う。 ・海外では、生徒がクラブチームでの活動と学校での活動を自分で選ぶことができるというシステムがある。また、大会は学年別で開催されるため、スポーツに参加している子どもたちが、全員試合に出場できるようになっている。
太田委員	・R7年度から部活動指導員の制度を開始するにあたって、他地域では、人事異動により部活動の顧問が変わったことで、部活動指導員とトラブルが生じたという事例があったと聞いているので、事前調査が必要ではないか。 ・来年度、外部指導者から任用する部活動指導員は、現在指導している学校の生徒が成長することにやりがいを感じ指導しているので、各校を巡回するのは現実的ではないのではないかと。部活動指導員の新たな活用は、時期を見て進めて

森委員	いくと良いのではないかな。
	・部活動指導員に何を期待するのかを、徐々に示していかなければならないと思う。
	・先行事例をよく見て進めていく必要がある。
太田委員	・東松山市として来年度は、土日を学校部活動として行うのか。
教育長	・来年度は学校部活動として考えている。将来的には、学校部活動をどのように地域展開していくかを考えていく。
森委員	・来年度はまず、部活動指導員の配置を始めて、その後出てきた課題を検証するという形で進めていければと思う。
	・来年度取り組む予定であるアンケートはどのような形なのか。
事務局	・以前行ったものをベースに、部活動指導員の活用を含めた内容を検討している。
太田委員	・東松山市として来年度取り組む内容で、地域クラブの活用については、R 8年度に向けて休日の部活動を中止できるかどうかを検討するという事で良いか。
事務局	・その通りである。
太田委員	・その場合には、怪我などに備えて保険とか考える必要がある。
	・次回の学習指導要領の改訂について、審議会内で部活動が教員の職務から外れる可能性があるという事聞いた。その部分も意識して部活動のことを考えなければならぬ。
教育長	・今のところ、国の考えている部活動がどのような扱いになるかは不明である
森委員	・教育は教科の学習だけでなく、子どもたちの課外活動が必要であると考えている。
	・県外他市町村では、午後5時まで部活動、それ以降は社会体育で行うという事例がある。
太田委員	・大学生を部活動指導員にする場合には、責任の範囲についても考えなければならぬ。制度的なサポートが必要ではないか。
森委員	・大学生は部活動指導員となる機会があっても良いが、場合によっては指導の経験がないため外部指導者としておいても良いのではないかな。
4 その他	(事務局) ・今年度は今回で最終回となる。次年度はまたスケジュールを連絡させていただく。 ・今年度も委員の方々に貴重なご意見等をいただきながら、課題とその解決策についても検討していきたいと考える。

7 閉 会	事務局：学校教育部次長 細野 敦
上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。 令和 7 年 6 月 2 0 日 <u>署名委員 大塚 実</u> <u>署名委員 寺田 浩之</u>	